2025年1月1日

号外 立憲民主 RIKKEN MINSHU

衆議院議員・小児科医 No.718（新年号）

あべともこニュース

一人一人の尊厳と平和的生存権を守る年に。

◆根本解決とは何か？水俣を訪ねて

２４日迄国会が延長された為、この日の午後に慌ただしく飛行機で熊本へ。飛行場からはタクシーで熊本学園大学水俣学研究センターに向かい、センター長の中地重晴さんからＰＦＡＳのお話を伺いました。特に労働安全衛生と工場の排水規制など、これまでにない視点についてもお聞きしました。

翌日からは水俣に移動、水俣病患者さんからの相談等を受けている相思社の歴史考証館と先天性の水俣病患者さん達のお話も伺い、更に工場の排水溝や患者さんの多発した地域も訪れ、余りにも穏やかな海で起こった悲劇に改めて、罪の深さを思います。

長年水俣で患者さんを診察してこられた高岡滋先生（協立クリニック院長）からは、今後はますます軽微な症状の患者さんが来る事、「認定」がいかに水俣病の本質を歪めたかなどの指摘がありました。

水銀中毒としての水俣病の病状と治療の確立はこれからの課題です。

◆歴史を残す資料館を大切に

熊本訪問にはもう一つ目的がありました。２００１年、阿部とも子がまだ当選したばかりの一年生議員だった頃、ハンセン病の国家賠償訴訟で国は敗訴、隔離政策の過ちと被害者への賠償が認められました。隔離政策がどのように行われたか、入所者の皆さんの生活の様々な記録を残す資料館が全国各地のハンセン病施設にあって、熊本県の菊池恵楓園ではとりわけ熱心な記録保存活動が行われており、その中に戦前の虹波治療実験も記されていました。藁にもすがる思いで治療実験に参加した患者さん達は、亡くなったり、重い副作用に苦しみ、効果も明らかではなかったので、この治験は中止されました。

危険な治療実験が隔離の中で行われたことはきちんと検証されねばなりません。既に多くの入所者が鬼籍に入られた今、残されたカルテをしっかり分析していくことが必要です。

そして、そのための予算や学芸員など、体制の充実も急務です。

◆人道外交議連、首相要請へ

２７日、阿部とも子は、事務局長を務める超党派「人道外交議員連盟」として、武見敬三新会長と近藤昭一幹事長とともに、「日本国政府による、パレスチナ・ガザ地区からのメディカル・エバキュエーション実施を求める署名」を石破茂首相に手交。７６名（衆４８・参２８）の国会議員の賛同を得て、ガザにおける医療体制の緊急性を鑑み、患者を当該域外へ避難させ、治療等にあたれる施策を講ずるべきだと要請しました。

議連発起人のお一人として会長をされていた石破首相からは、「国としてまず、何ができるかを課題整理し、実行できる取り組みをしていきたい」と前向きな回答をいただきました。また懇談の中で、ガザ住民にとって重要な組織であるＵＮＲＷＡ（国連パレスチナ難民救済事業機関）へのさらなる支援も検討いただくようお伝えしました。

折しも、イスラエル軍が北部にあるカマル・アドワン病院を攻撃したという報道も…引き続き議連として人道危機を解決すべく活動して参ります。

衆議院議員あべともこ
プロフィール
神奈川12区（藤沢市・寒川町）
当選９回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこども
クリニック（湘南台）理事長
現在、環境委員会
原子力問題調査特別委員会委員

あべともこ
公式X（旧Twitter）
@abe_tomoko
https://twitter.com/abe_tomoko

あべともこ事務所
公式Facebookページ
https://www.facebook.com/abetomoko.jp

あべともこ　検索

立憲民主党神奈川県総支部連合会　〒231-0012 横浜市中区相生町 4-69-2Ｆ　TEL 045-226-2377 FAX 045-226-2378

衆議院議員　あべともこ事務所　〒251-0025　藤沢市鵠沼石上 1-13-13-1Ｆ
TEL 0466-52-2680　FAX 0466-52-2681 E-mail：inochi@shonanfujisawa.com